

東北大学 東北メディカル・メガバンク機構 施設見学・意見交換会を実施

8月5日、東北大学 東北メディカル・メガバンク機構の施設見学・意見交換会を実施し、島田副会長及び小脇副会長・専務理事をはじめ16名が参加した。

東北メディカル・メガバンク機構は、未来型医療を指向し、震災復興に取り組むことを目的として2012年に東北大学に設置された。同機構は、東日本大震災の被災地における地域医療の再建と健康支援に取り組ながら、医療情報とゲノム情報を複合させたバイオバンク(生体試料保管庫)の構築を目指している。

バイオバンクでは、15万人の試料・情報を情報セキュリティが確保された基盤において長期間管理し、次世代医療を目指す個別化医療・個別化予防の先導モデルとして国内外のプロジェクト・研究機関と連携を進めている。また、収集・保管・管理する試料及び情報については、民間企業や研究者に積極的に活用してもらうための分譲(有償)制度もある。

当日は、機構の概要や情報分譲の仕組みについて説明を受け、バイオバンク室及び各種解析室、地域支援センターと子どもけんこうスクエア等を見学した。その後、東北メディカル・メガバンク機構長の山本雅之教授をはじめ、ゲノムプラットフォーム連携センター長の木下賢吾教授等との意見交換の懇談が行われた。

医療・健康データの活用は、高齢化や地域社会の抱える課題解決の大きな鍵となり、同時に我々業界にとっても新たなビジネス創造のチャンスともなる。同機構とは今後とも交流を図っていくこととなった。

(手計)

